

よなごびと

第39回

もり 森
 りね 璃音 さん
 なぎ 凧 さん
 れん 然 さん



” プログラミングの喜びは、
 完成したときの達成感

昨年12月に行われた鳥取県小中高生プログラミングコンテスト。「鳥取の未来」をテーマに開催されたこのコンテストで、森璃音さん(14歳)は鳥取県知事賞を、弟の凧さん(12歳)・然さん(9歳)の2人はチームで鳥取県情報産業協会会長賞を受賞しました。

8年ほど前にお父さんに勧められプログラミングを始めました璃音さん。「失敗もたくさんありますが、どうすれば良いか考え、解決できたときの達成感はずいぶん」と、その面白さを笑顔で話します。

璃音さんの作品は、県内の産業や人口のデータをもとに鳥取の未来を予測するプログラム。「多くのに関心を持ってもらえるよう親しみやすいキャラクターやグラフを使い

工夫しました」

凧さんと然さんは、璃音さんの楽しそうな姿を見てプログラミングを始めました。2人のプログラムは、理想の鳥取県をめざして演説を行い、県内に施設を建設していくもの。演説のできで施設が建てやすくなり、ゲームのように楽しめます。

4月から中学生になる凧さんの目標は璃音さんです。「次の大会ではお姉ちゃんと同じ賞を獲って、中学の間にコンテストを3連覇したいです」得意な絵を担当した然さんは、「お兄ちゃんと協力してつくるのが楽しかった」と少し恥ずかしそう。

2人は3月に行われる全国選抜小学校プログラミング大会に出場します。



表彰状を手にする3人



コンテストはオンラインで開催された。出場作品は年々レベルが上がっている

